

第1回FD・SD合同研修会の開催報告について

1 日 時

2025（令和7）年7月31日（木）16：20～17：45

2 場 所

各研究室等からZoomで参加

3 対象者

全教員

職員（任意）

4 研修内容

（1）テーマ

「“できることから” 始める合理的配慮 ― 実践例と支援の工夫」

（2）研修会

①司会・進行

永富 大舗 先生（研究教育開発センター 副センター長）

②講演者

高橋 知音 先生（信州大学 教授）

5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

令和7年9月30日現在

所	属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科		14	14
経 営 学 科		16	15
社 会 福 祉 学 科		15	15
児 童 学 科		18	16
国 際 文 化 学 科		20	19
音 楽 学 科		7	7
看 護 学 科		28	24
教 員 合 計		118	110
事 務 局 職 員		91	46
合 計		209	156

6 総 括

- (1) 今回の研修会では、信州大学の高橋知音先生を講師に迎え、「“できることから” 始める合理的配慮—実践例と支援の工夫—」をテーマに、合理的配慮と教育的対応の概念や、発達障害のある学生への具体的な支援方法についてご講演いただいた。この講演では、発達障害（限局性学習症、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症など）の特性や、それに伴う学習困難について理解を深め、事例に基づいた具体的な対応策を学ぶことができた。また、診断書がなかったとしても、機能障害があつて学修に影響が出ている場合は合理的配慮の対象になりうること、さらに、診断書がない「グレーゾーン」の学生には教育的対応が望ましいことも確認できた。
- (2) 研修会に参加した教職員からは、個々の学生への配慮や対応の難しさ、教職員間の連携の必要性について多くの意見が寄せられた。合理的配慮の程度や、教育の本質と配慮のバランスを取ること、学生の過剰な要求への対応が難しいといった声に対して、特定の教職員に負担が集中しないよう、大学全体でガイドラインや支援体制を整備する必要があるという共通認識を確認することができた。
- (3) 今回の研修会では、参加者から「具体的で分かりやすかった」、「大変参考になった」といった肯定的な感想が多数寄せられた。また、多くの教職員が学生支援に関するテーマに関心を持っていることが明らかになり、「今後も定期的に開催してほしい」という要望も寄せられた。

以 上

第2回FD・SD合同研修会の開催報告について

1 日 時

2026（令和8）年2月3日（火）13:00～14:25

2 場 所

各研究室等から Zoom で参加

3 対象者

全教職員

4 研修内容（テーマ）

（1）テーマ

「最高の『学び』をデザインする ーアプローチ・出席・評価の新しいパラダイムー」

（3）研修会

①総合司会（ファシリテーター）

永富 大舗 先生（研究教育開発センター 副センター長）

②シンポジスト

キム リーナ先生（研究教育開発センター センター員）

③学生代表（シンポジスト）

学生FDパートナー4名

5 当日の参加者数（動画視聴者を含む）

令和8年3月31日現在

所	属	対象者数（名）	参加者数（名）				
経	済	学	科	14	7		
経	営	学	科	16	13		
社	会	福	祉	学	科	15	14
児	童	学	科	19	18		
国	際	文	化	学	科	20	14
音	楽	学	科	7	6		
看	護	学	科	29	20		
教	員	合	計	120	92		
事	務	局	職	員	91	35	
合	計	210	127				

6 総 括

- (1) 今回の研修会では、「最高の『学び』をデザインする」をメインテーマに掲げ、学生代表の「学生FDパートナー」と研究教育開発センター員の教員が、それぞれの立場から今後の授業の在り方についてブレインストーミングを行った。ここでは、授業における出席方法、評価方法、課題提出などといった事例から、JR 運休時の対応などといった具体的な事例まで、あらゆる学修場面における内容について議論された。特に、教員によって出席方法や評価方法の基準が異なることが、学生にとっての不安要素に繋がっている実態が共有された。これにより、学生と教員の双方が抱く認識の「ズレ」を可視化することができた。
- (2) 研修会に参加した教職員からは、学生の本音や認識を知ることができたという肯定的な意見とともに、教員間でのルールの一貫性や周知の必要性について多くの意見が寄せられた。これらの議論を通じ、個々の教員の工夫に留めるのではなく、大学全体のガイドラインに沿ったうえで、スチューデントファーストの視点に立った標準的な支援体制を構築していくことの重要性が改めて確認された。
- (3) 今回の研修会では、アンケートを通じて「学生の生の声を聴くことで、自身の授業を省みる良いきっかけになった」との声が寄せられ、教職員の意識改革に繋がる機会になったと考えられる。また、事務職員からも、教職協働の観点から学生支援の在り方を考える一助になったという感想が得られた。今後も学生を交えた多角的な議論の場を定期的に設け、本学の教育の質を継続的に向上させていくための取り組みを推進してほしいという強い要望が寄せられている。

以 上

第3回FD・SD合同研修会の開催報告について

1 日 時

2026（令和8）年2月2日（月）10:00～12:25

2 場 所

図書館4階 産学官地域連携センター「ワーキングスペース」

3 対象者

全教職員

4 研修内容

地域フィールド演習成果報告（参加学生による活動報告）

5 研修会次第

（1）開会挨拶

太田 秀春 産学官地域連携センター長

（2）ポスター発表

（3）講評及び閉会挨拶

小林 潤司 学長

6 当日の参加者数

令和8年3月31日現在

所	属	対象者数（名）	参加者数（名）				
経	済	学	科	14	4		
経	営	学	科	16	10		
社	会	福	祉	学	科	15	9
児	童	学	科	19	4		
国	際	文	化	学	科	20	9
音	楽	学	科	7	2		
看	護	学	科	29	0		
教	員	合	計	120	38		
事	務	局	職	員	91	29	
合		計		210	67		

7 総 括（研修会参加者のアンケートを基に）

- ・地域フィールド演習の重要性を評価する声が複数の参加者から上がった。
- ・他学科、他のゼミの活動を知る良い機会であり、自身の授業改善に活かせるとして肯定的に評価していた。
- ・多くの参加者が、学生の主体的な取組み・発表能力の高さを評価しており、「生き生きしていた」「堂々としていた」「深い学びにつながっている」という声があった。
- ・学生自身の成長を感じたという意見も多かった。
- ・一方で、参加者が少ないとの指摘があり、FD・SD研修会としての意義を考えるともったいないとの意見もあった。また、会場が狭く、声が聞き取りにくいという指摘もあった。
- ・今回の成果報告会の参加者の声を取り入れ、地域フィールド演習の改善を図っていきたい。また、本学にはこのような数十人規模の発表やイベントに使用できる適切な会場（教室・ホール）が無いという問題も露呈した。昨今の「学び」のスタイルに合うように、実施会場を再考せねばならない。

以 上